

新潟市生涯歯科保健計画（第四次）の評価指標に関する評価

1. 目標達成状況

- 新潟市生涯歯科保健計画（第四次）における評価指標は、22項目（1項目統合）設定。
- 目標達成状況まとめについては表1のとおり。
- 各項目の状況については表2のとおり。
- 「目標を達成した」項目の多くが、園児期・学齢期に関する項目となっている。
- 成人期・高齢期では「目標を達成していないが改善傾向にある」項目や「変化なし」が5項目あるものの、「目標を達成した」項目は1項目のみだった。
- 障がい者・要介護者では、「悪化傾向」が5項目中2項目あった。

表1. 新潟市生涯歯科保健計画（第四次）の目標達成状況

評価区分	評価区分記号	該当項目数（割合）
目標を達成した	○	7項目（31.8%）
目標を達成していないが改善傾向にある	△	5項目（22.7%）
変化なし	—	5項目（22.7%）
悪化の傾向にある	×	5項目（22.7%）
合計		22項目（100.0%）

表2. 新潟市生涯歯科保健計画（第四次）指標・目標値一覧

【評価区分】

- ：目標を達成した
- △：目標を達成していないが改善傾向にある
- ：変化なし
- ×：悪化の傾向にある
- ※：参考値であり評価せず

	No	評価指標	ベースライン H24	目標値 H30	最新値 H29	評価 区分	(評価) 確定/ 未確定		
乳幼児期	1	3歳児でむし歯（乳歯むし歯）がない者の割合 出典：3歳児歯科健診事業結果	85.2%	90%以上	90.2%	○	確定		
	2	フッ化物（フッ素）塗布を定期的に受けている3歳児の割合	(H26) 37.5%	40%以上	36.4%	—	確定		
	3	間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する習慣を持つ3歳児の割合 出典：3歳児歯科健診事業結果	24.5%	20%以下	26.1%	—	確定		
園児期・学齢期	4	6歳児（小学校1年生）でむし歯（永久歯のみ）がない者の割合 出典：新潟市学校保健統計	98.3%	98.5%	98.0%	—	確定		
	5	12歳児（中学校1年生）でむし歯がない者の割合 出典：新潟市学校保健統計	70.5%	82.1%	79.7%	△	確定		
	6	12歳児（中学校1年生）の一人平均むし歯本数 出典：新潟市学校保健統計	0.71本	0.36本	0.44本	△	確定		
	7	12歳児（中学校1年生）で歯肉に所見が認められる者の割合 出典：新潟市学校保健統計	20.6%	16.6%	18.4%	—	確定		
	8	歯間部清掃用具（デンタルフロス等）の使い方を指導している学校数	小学校	—	113校 （全校）	107校 （全校）	○	確定	
			中学校	—	57校 （全校）	56校 （全校）	○	確定	
	9	フッ化物（フッ素）洗口実施園・学校数 出典：新潟市歯科保健年報	保育園	167/203園	191/260園 (73.5%)	向上	計 210/264園 (79.5%) 保 165/191園 幼・こ 45/73園	○	確定
			幼稚園（認定こども園含む）	24/57園		34園			
			小学校	34/122校		93校	82/107校 H30:12校 実施予定で 94/106校	○	確定 見込

	No	評価指標	ベースライン H24	目標値 H30	最新値 H29	評価 区分	(評価) 確定/ 未確定	
成人期・高年齢期	10	40歳で進行した歯周炎を有する者の割合 出典：新潟市成人歯科健診事業結果	53.2%	50%以下	61.3%	×	確定	
	11	【参考値】 6024 達成者率	(H23) 71.4%	向上	(H27) 66.7%	※	確定	
		8020 達成者率 出典：県民健康・栄養実態調査結果	(H23) 18.6%	向上	(H27) 65.2%	※	確定	
	12	60歳代における咀嚼良好者の割合 出典：新潟市食育・健康づくり市民アンケート調査	(H25) 78.0%	80%以上	73.9%	×	未確定	
	13	過去1年間に歯科健康診査を受診した者の割合 出典：新潟市食育・健康づくり市民アンケート調査	40歳代	(H25) 48.1%	50%以上	45.9%	×	未確定
			50歳代	(H25) 48.3%	60%以上	54.0%	△	未確定
	14	歯間部清掃用具を使用している者の割合 出典：新潟市食育・健康づくり市民アンケート調査	40歳代	48.4%	55%以上	51.4%	△	未確定
			50歳代	53.2%	60%以上	58.0%	△	未確定
	15	口腔機能の低下のおそれがある者の割合 (二次予防事業対象者のうち「口腔機能の向上」に該当した者の割合) 出典：二次予防事業対象者把握事業結果	55.8%	維持	(H28) 56.6% 注1	○	確定	
	障がい者・要介護者	16	訪問歯科診療を実施する歯科医院の数 出典：「にいがた医療情報ネット」情報よりカウント	(H25.10) 337 医療機関	増加	(H29.10) 330 医療機関	×	確定
17		障がい者診療を実施する歯科医院の数 出典：新潟市歯科医師会調査	71 医療機関	増加	(H28) 72 医療機関	○	確定	
18		新潟市口腔保健福祉センターが、市民や施設関係者等からの相談に対応した件数 出典：新潟市口腔保健福祉センター年次報告書	117件	140件	120件	—	確定	
19		新潟市口腔保健福祉センターにおいて障がい者や高齢者にかかわる施設に訪問した件数 出典：新潟市口腔保健福祉センター年次報告書	81件	90件	71件	×	確定	

注1：H29より基本チェックリストの実施方法が変更。

2. 各ライフステージの歯科保健の現状と第五次計画の方向性

○乳幼児期

	歯科保健の現状	関連指標 No	第五次計画の方向性
1	乳歯のむし歯は減少傾向にあるが、3歳児においては、増加した年度もあった。	No.1	引き続き、健診事業等での歯科保健指導や定期的なフッ化物利用による乳歯のむし歯予防対策が必要。

○園児期・学齢期

	歯科保健の現状	関連指標 No	第五次計画の方向性
2	園・学校単位でのフッ化物洗口や歯科保健教育等の成果により、12歳児の永久歯のむし歯は、減少傾向にあるが、目標値を達成していない。	No.5 No.6 No.9	引き続き、施設単位でのフッ化物洗口や歯科保健教育等の対策が必要。
3	歯間部清掃用具の使用法の指導は、全校実施であるが、歯肉有所見者の割合は、横ばいの状況である。	No.7 No.8	引き続き、学校や歯科医療機関等における歯間部清掃用具の継続的な使用について啓発が必要。

○成人期・高齢期

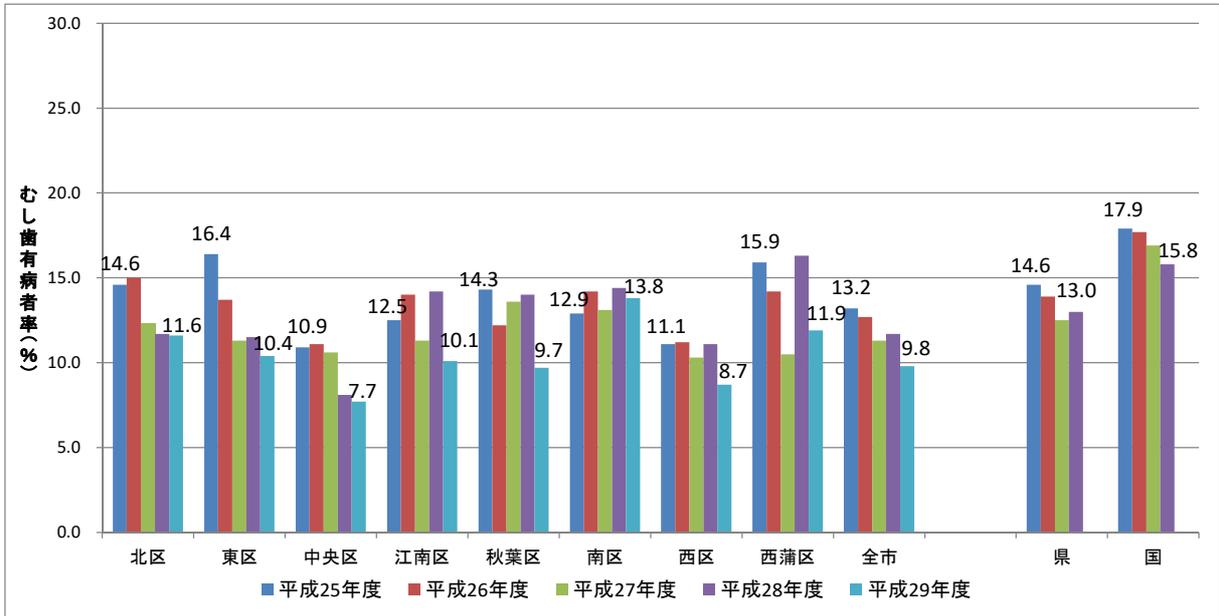
	歯科保健の現状	関連指標 No	第五次計画の方向性
4	高齢者の現在歯数は全国的にも増加傾向にあり、8020（ハチマルニマル）達成率は全国平均51.2%（注2）、本市58.6%（注3）である。 注2：H28 歯科疾患実態調査 注3：H30 市民口腔保健調査	No.11	高齢者においてもむし歯、歯周病対策が重要なものとなる。
5	60歳代咀嚼良好者は全国平均72.6%（注4）、本市73.9%（注5）と全国平均並みであるが、噛めないものがある人は約26%いる。ただし、本項目は主観的な評価であり、留意が必要である。 注4：H27 国民健康・栄養調査 注5：H29 市食育・健康づくり市民アンケート調査	No.12 No.15	今後も高齢者が増加する中で、何でも噛める口腔内を整えることをはじめとしたオーラルフレイルの予防が重要である。
6	成人期の歯間部清掃用具の使用率は増加傾向にあるものの、歯周病の罹患率は、悪化の状況である。また、定期的な歯科健診の割合も目標未達成である。	No.10 No.13 No.14	成人期の更なる歯周疾患対策が重要である。また、かかりつけ歯科医の効果的な活用等も含め対策を検討する必要がある。

○障がい者・要介護者

	歯科保健の現状	関連指標 No	第五次計画の方向性
7	訪問歯科診療を実施する歯科医院の数は減少し、障がい者診療を実施する歯科医院の数は1件増加した。	No.16 No.17	今後も歯科保健医療を受けやすくするため、社会環境の整備の観点から関係施設からの意見を聞くなどし、対策の検討が必要。
8	新潟市口腔保健福祉センターにおける相談件数は、増加傾向にはないものの、一定の件数で相談に応じており、認知度が定着しつつあると考える。訪問は実績を踏まえH30から対象施設を拡大するなど利用の増加を目指している。	No.18 No.19	センターだけでなく地域の歯科医療機関においても障がい者、高齢者などの診療を受けられるように、人材育成を進めていく必要がある。

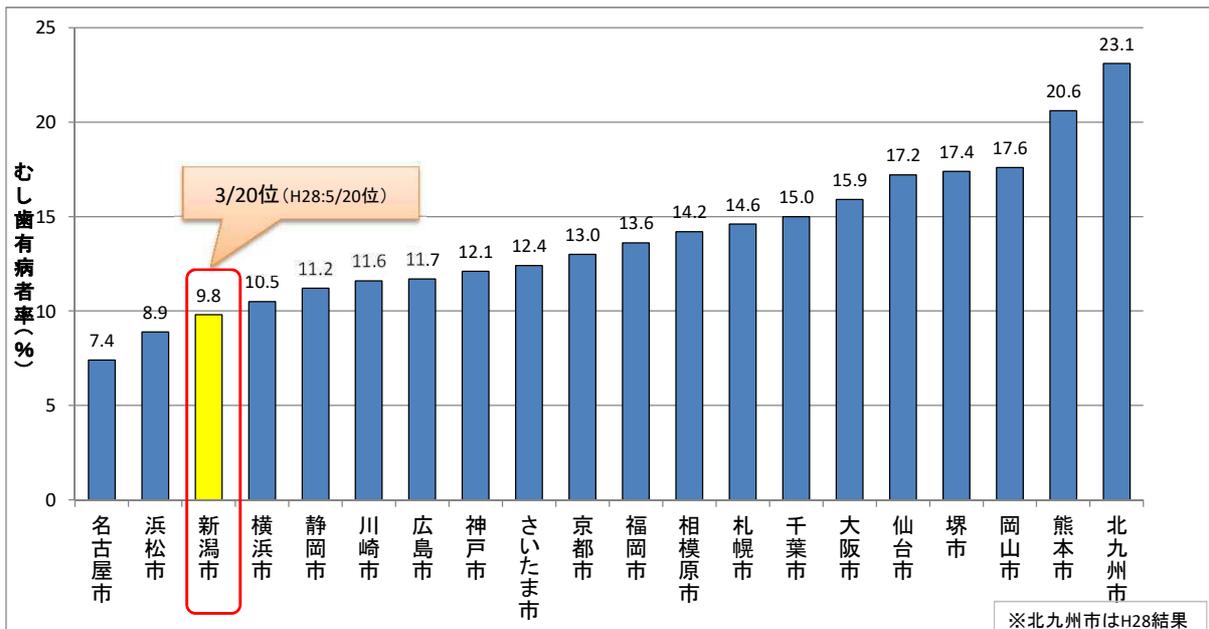
評価指標No.1参考

図1. 3歳児でむし歯がある者の割合（区毎）



出典：3歳児歯科健診事業結果

図2. 政令指定都市3歳児のむし歯をもつ者の割合（平成29年度3歳児歯科健診結果）

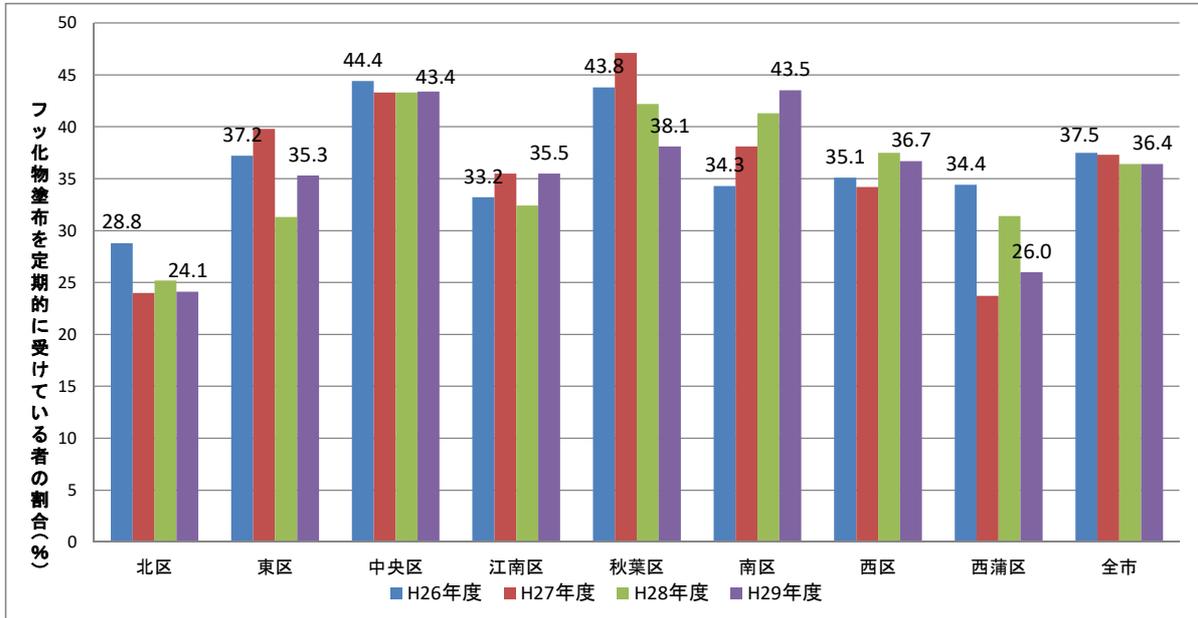


※北九州市はH28結果

出典：平成30年度政令指定都市母子保健主管課長会議報告

評価指標No.2参考

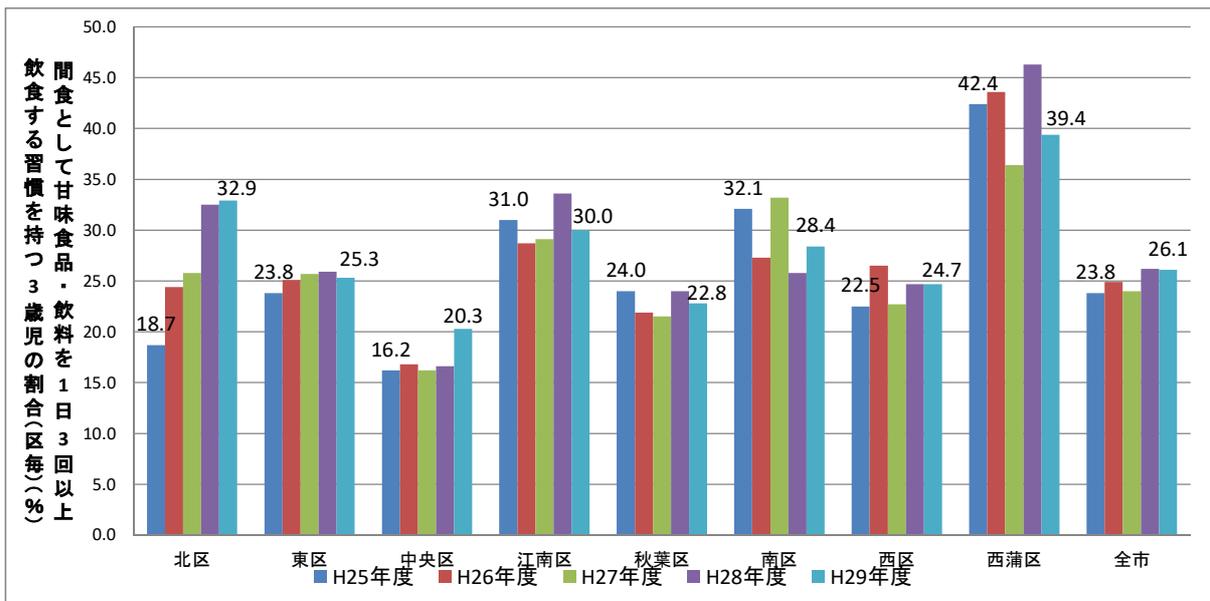
図3. フッ化物塗布を定期的に受けている3歳児の割合（区毎）



出典: 3歳児歯科健診事業結果

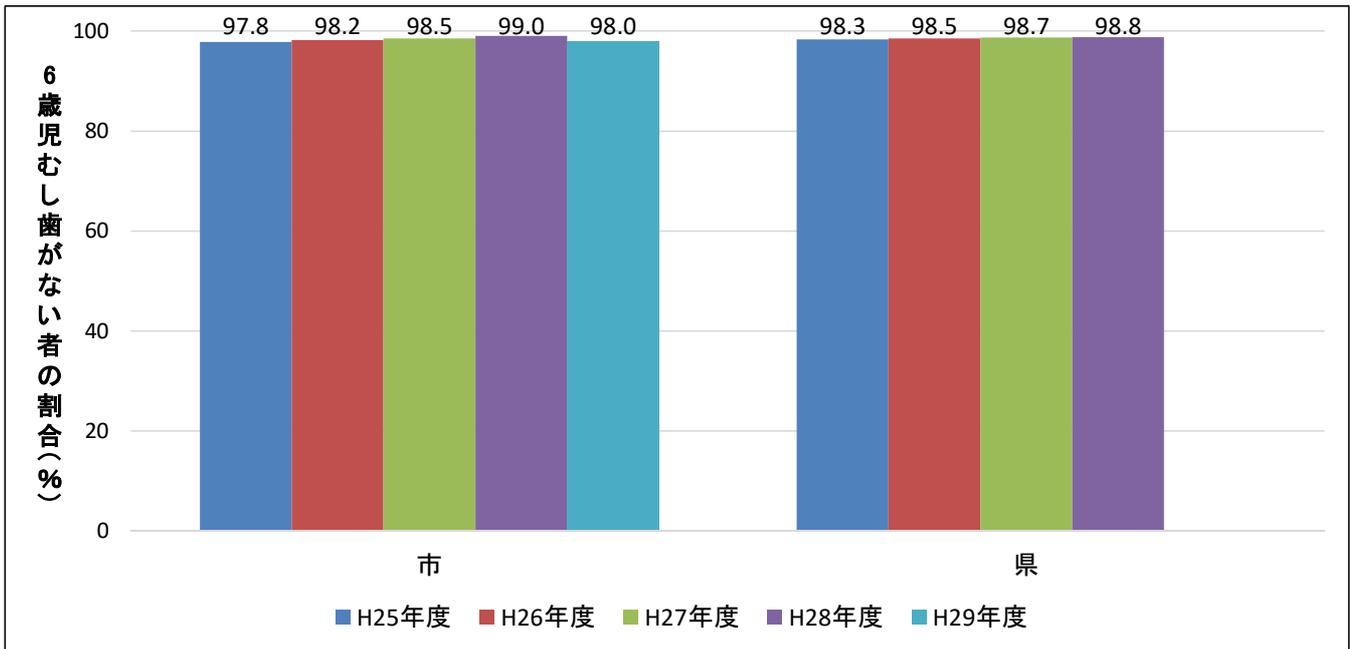
評価指標No.3参考

図4. 間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する習慣を持つ3歳児の割合（区毎）



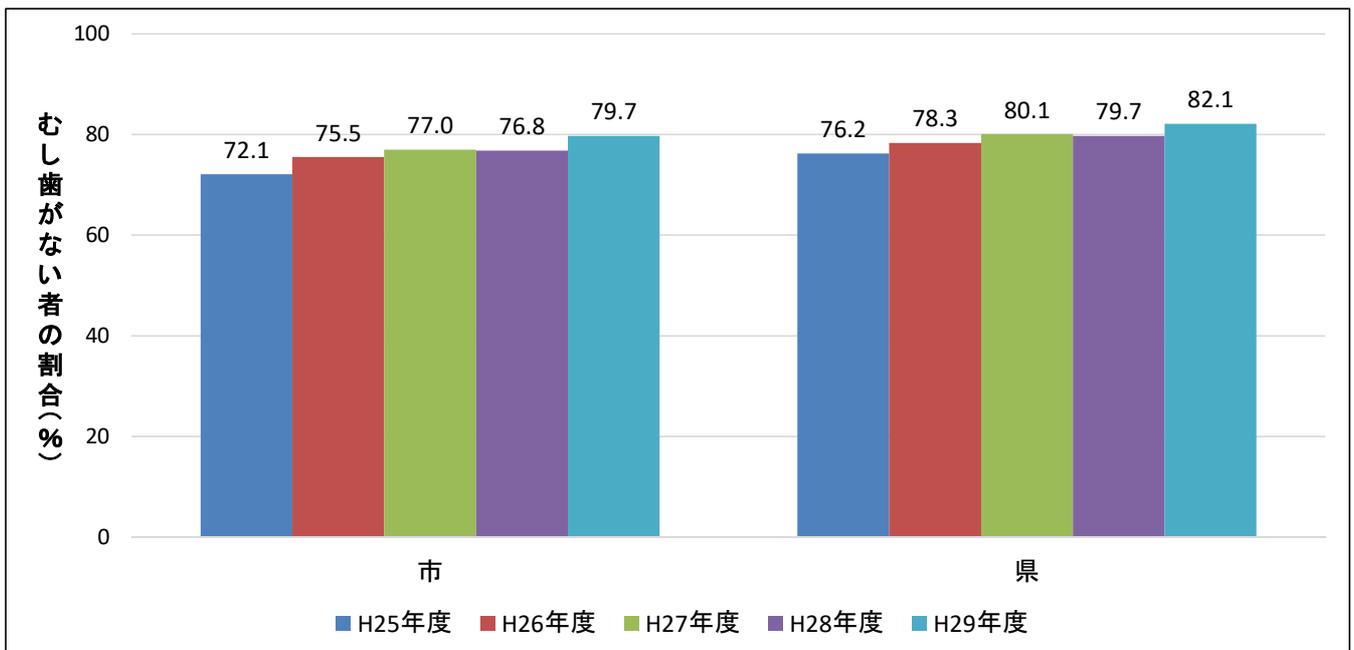
出典: 3歳児歯科健診事業結果

図5. 6歳児（小学校1年生）むし歯がない者の割合



出典：新潟市学校保健統計

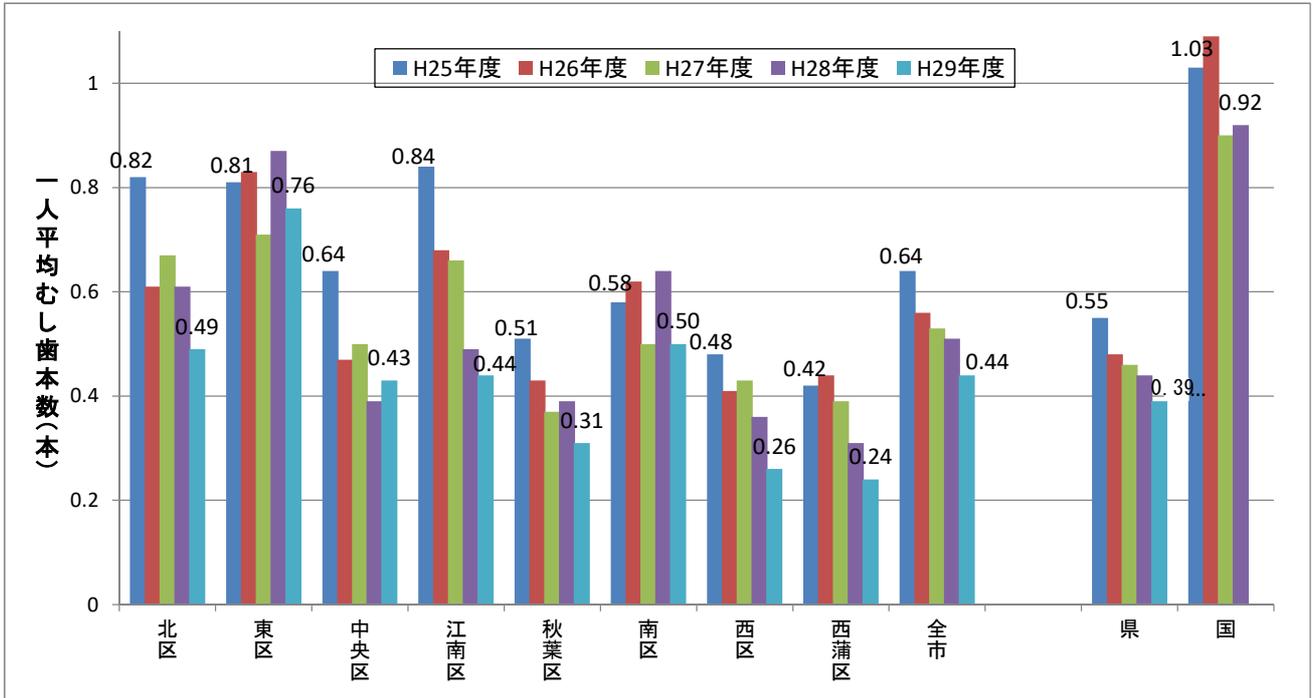
図6. 12歳児（中学校1年生）むし歯がない者の割合



出典：新潟市学校保健統計

評価指標No.6参考

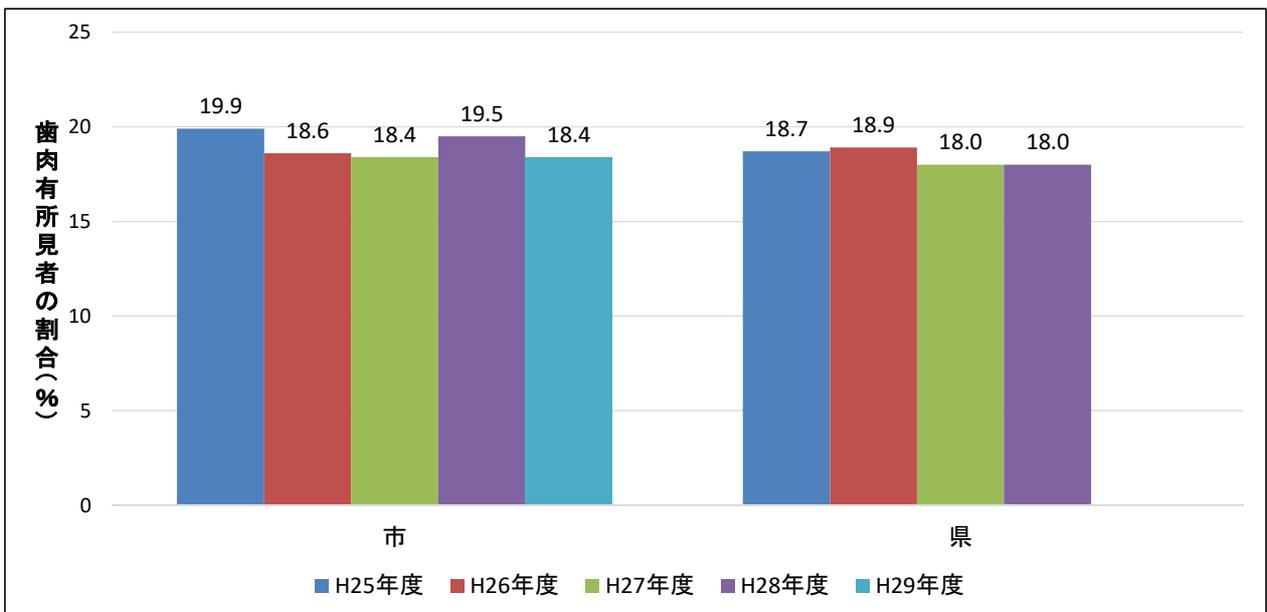
図7. 12歳児（中学校1年生）一人平均むし歯本数（区毎）



出典：新潟市学校保健統計

評価指標No.7参考

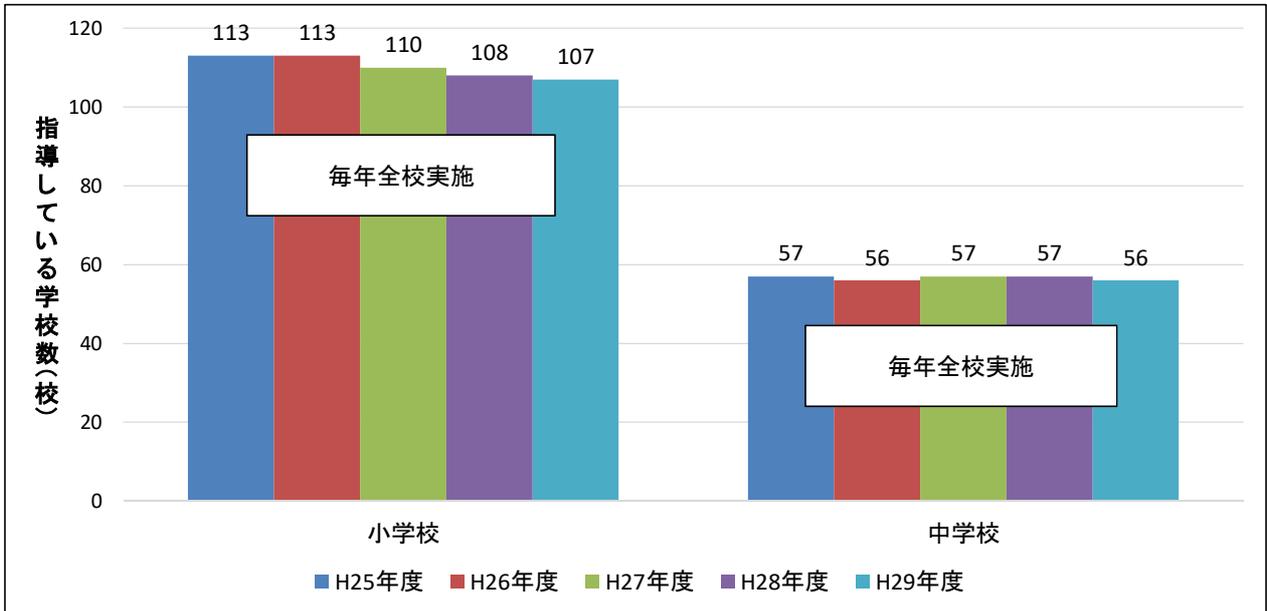
図8. 12歳児（中学校1年生）歯肉に所見が認められる者の割合



出典：新潟市学校保健統計

評価指標No.8参考

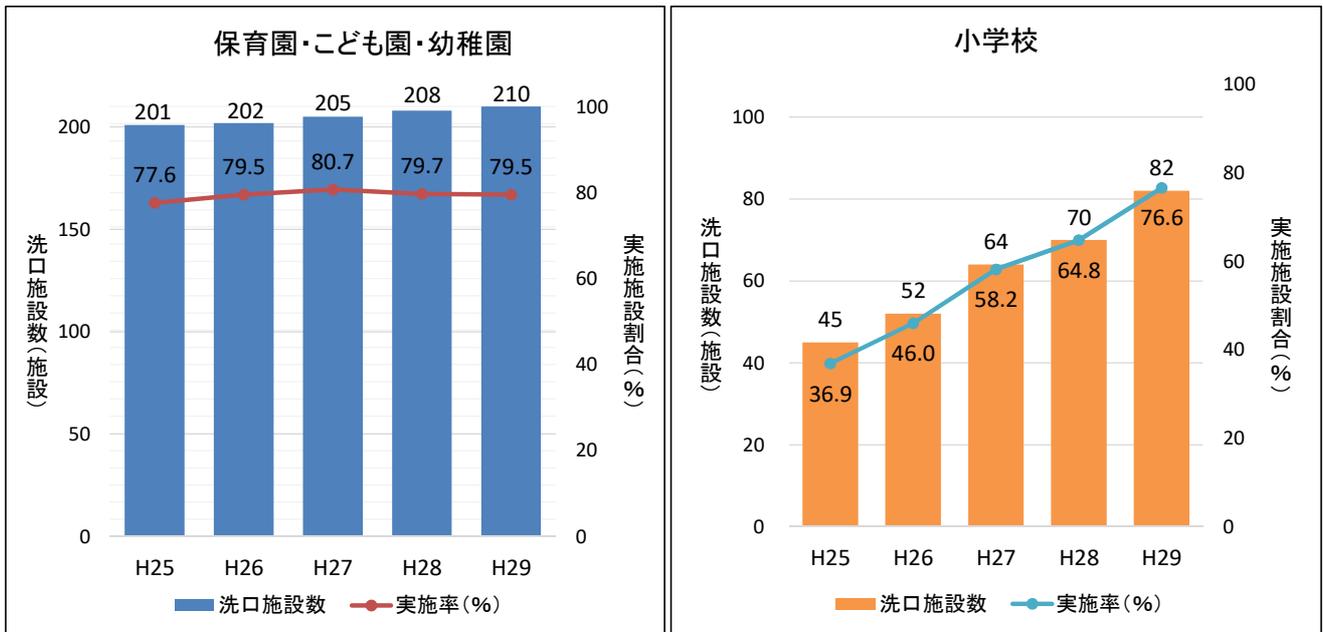
図9. 歯間部清掃用具（デンタルフロス等）の使い方を指導している学校数



出典：保健給食課調査

評価指標No.9参考

図10. フッ化物洗口実施園・学校数（施設数）および実施割合（％）



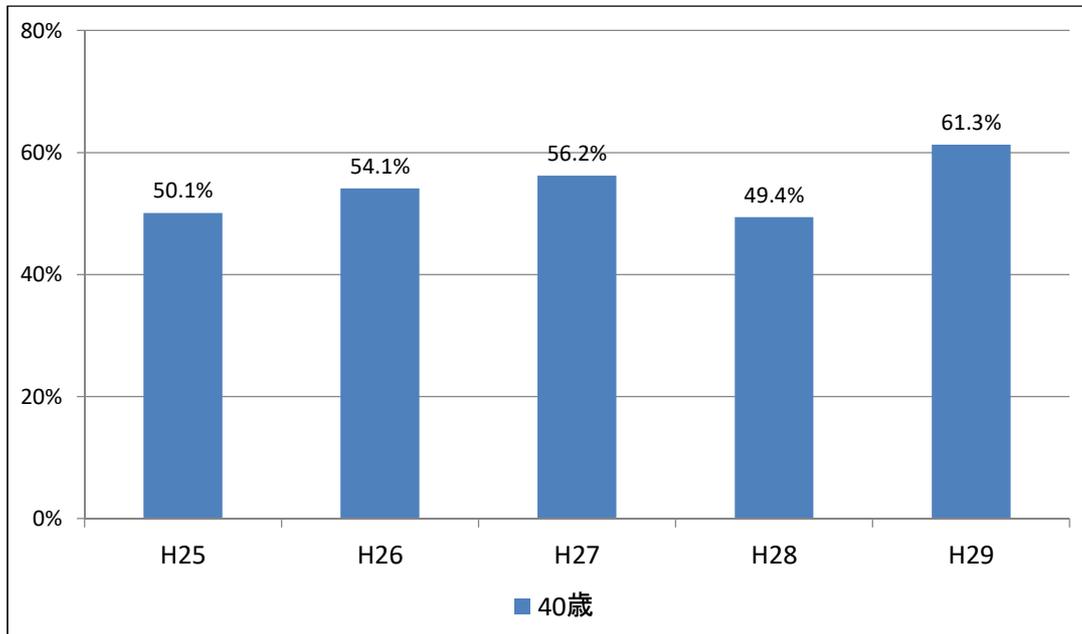
出典：新潟市歯科保健年報

※園数について：H26年度からこども園の制度が開始され、本市は主に私立幼稚園と私立保育園がこども園に移行している。

※小校数について：統廃合に伴い、H25年度は113校であったが、H29年度は107校に減少。

評価指標No.10参考

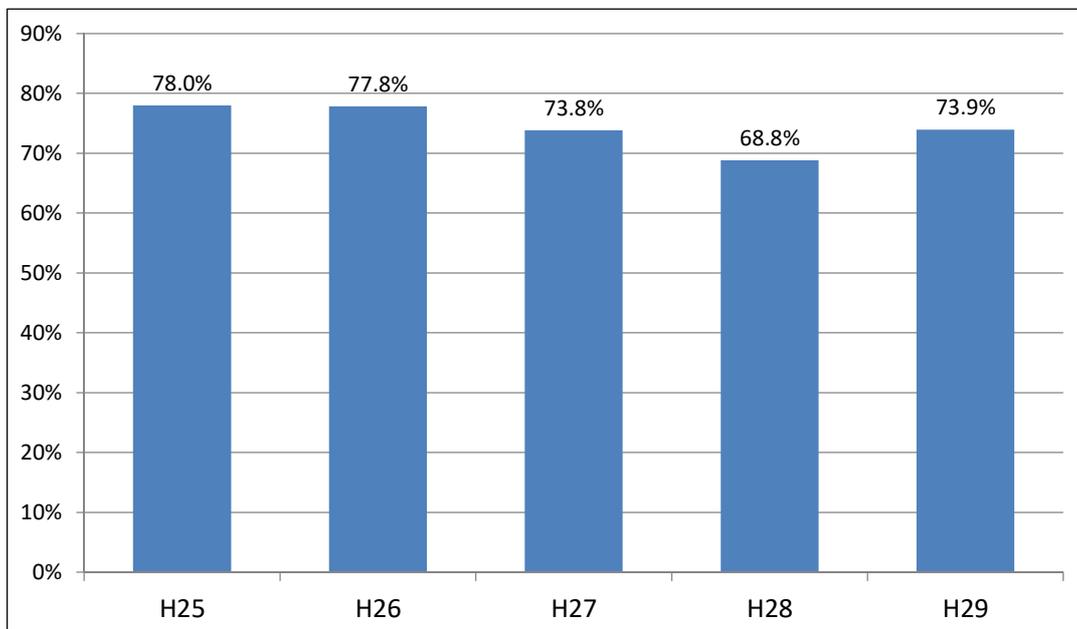
図11. 40歳で進行した歯周炎を有する者の割合



出典:新潟市成人歯科健診事業結果

評価指標No.12参考

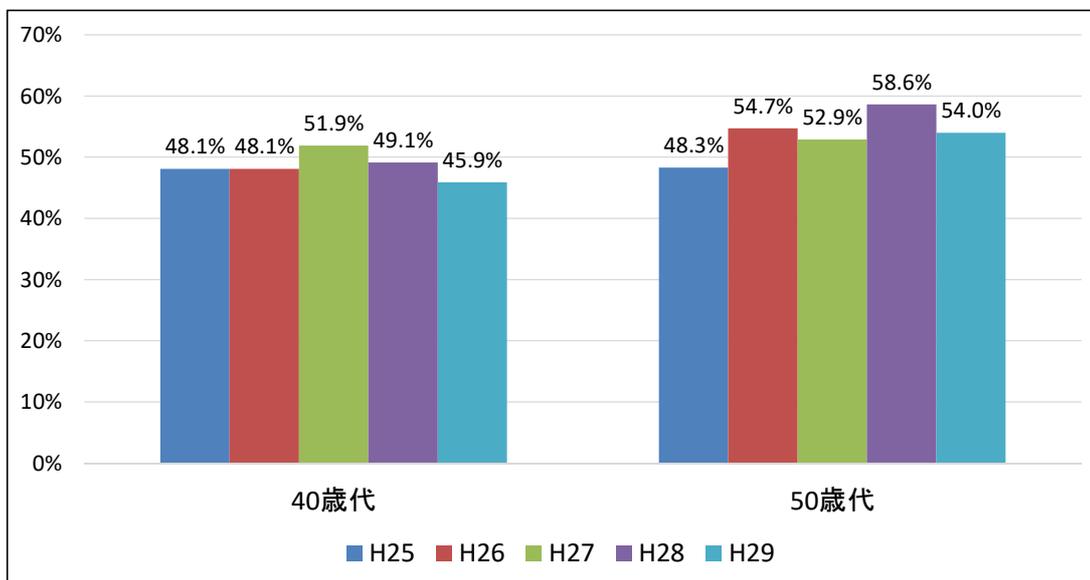
図12. 60歳代における咀嚼良好者の割合



出典:新潟市食育・健康づくり市民アンケート調査

評価指標No.13参考

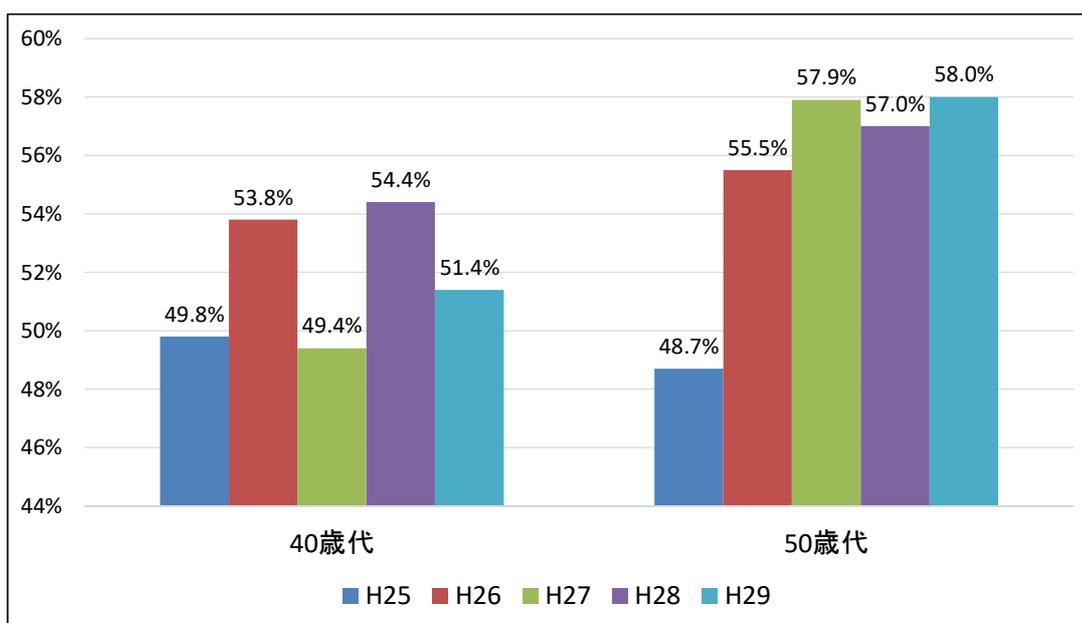
図13. 過去1年間に歯科健康診査を受診した者の割合



出典:新潟市食育・健康づくり市民アンケート調査

評価指標No.14参考

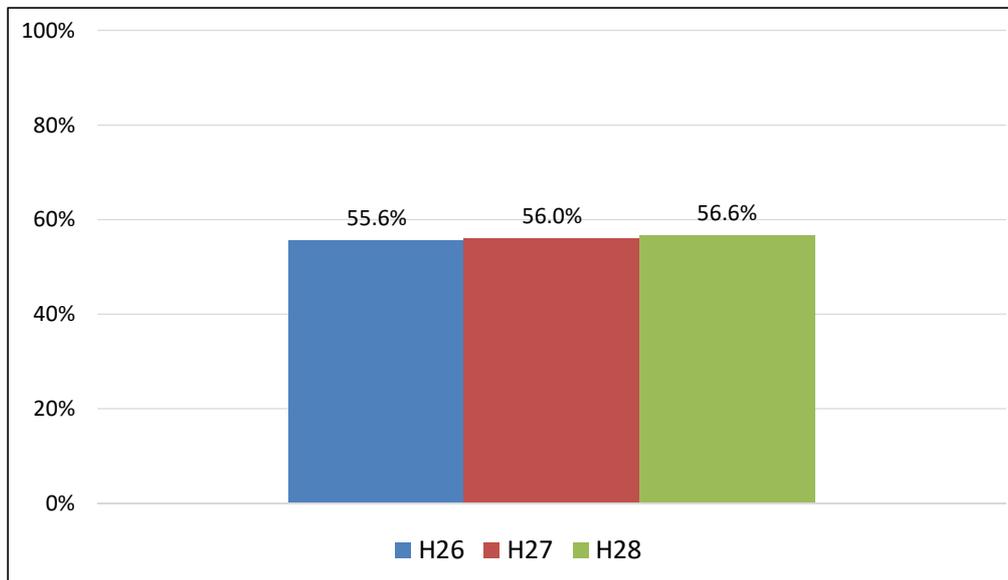
図14. 歯間部清掃用具を使用している者の割合



出典:新潟市食育・健康づくり市民アンケート調査

評価指標No.15参考

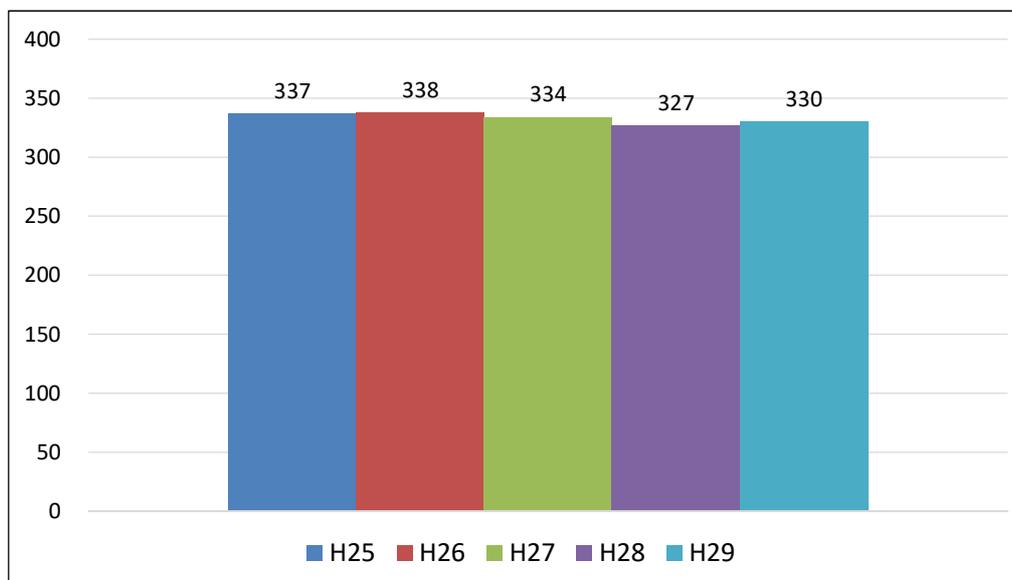
図15. 口腔機能の低下のおそれがある者の割合



出典: 二次予防事業対象者把握事業結果

評価指標No.16参考

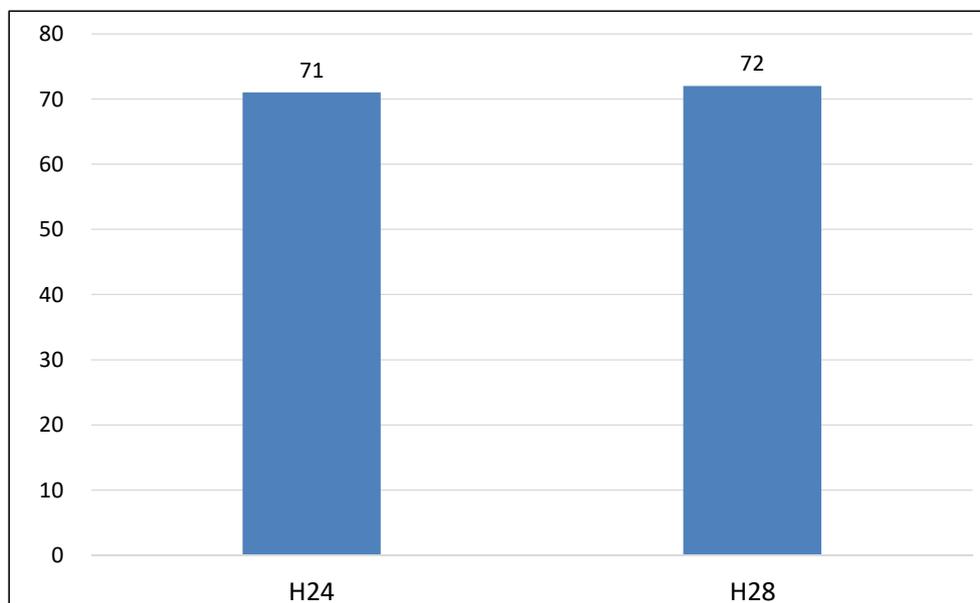
図16. 訪問歯科診療を実施する歯科医院の数



出典: 「にいがた医療情報ネット」情報よりカウント

評価指標No.17参考

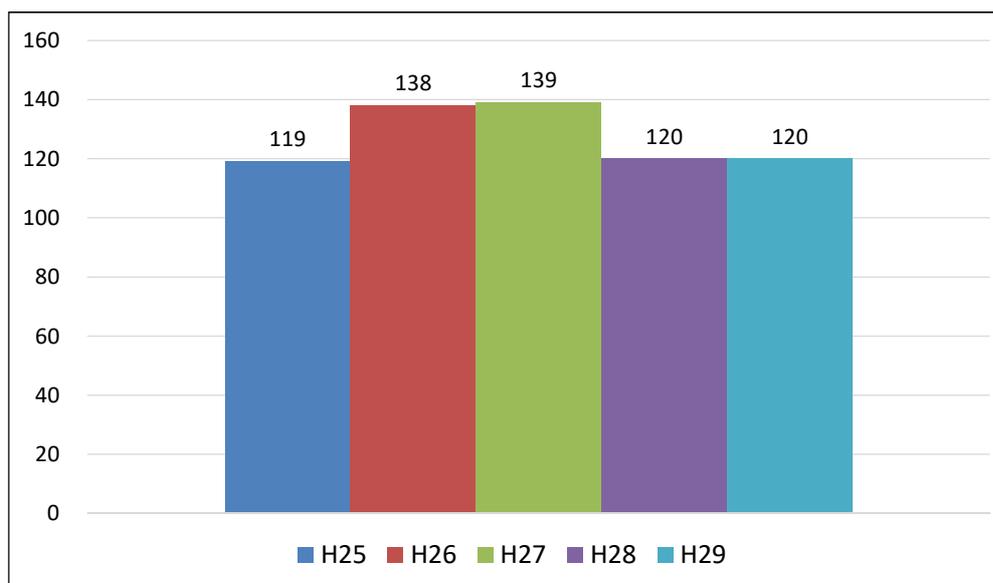
図17. 障がい者診療を実施する歯科医院の数



出典:新潟市歯科医師会調査

評価指標No.18参考

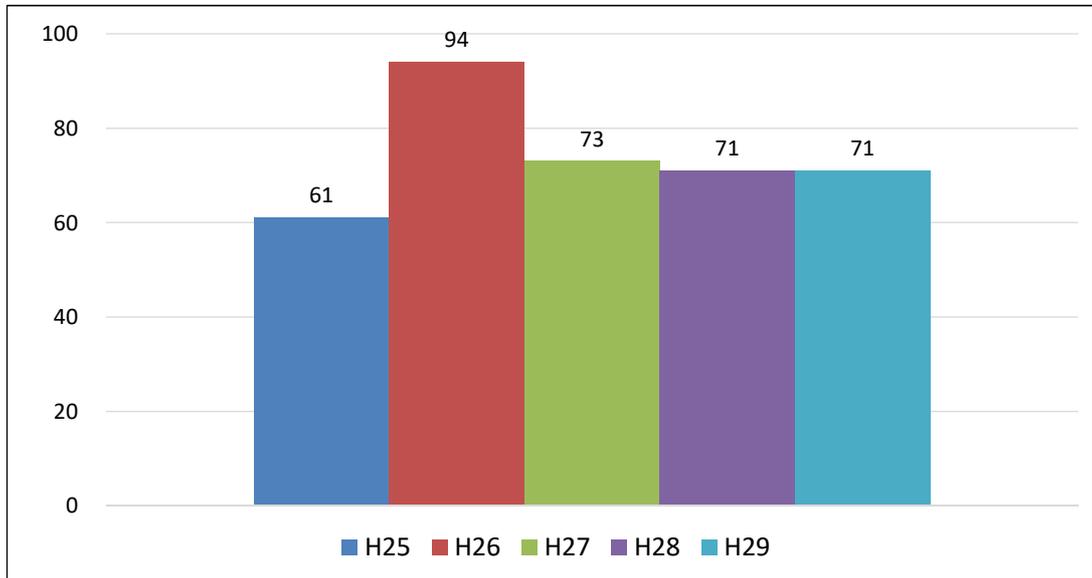
図18. 新潟市口腔保健福祉センターが、市民や施設関係者等からの相談に対応した件数



出典:新潟市口腔保健福祉センター年次報告書

評価指標No.19参考

図19. 新潟市口腔保健福祉センターにおいて障がい者や高齢者にかかわる施設に訪問した件数



出典:新潟市口腔保健福祉センター年次報告書